

# カンガルーシップ活動 共生プロジェクト 実施報告書

報告日	平成30年2月19日
主管学校名	愛媛大学附属高等学校
PTA会長名	山本 修平

実施概要	主管校	愛媛大学附属高等学校	
	交流校	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	
	実施活動名	「みかんの家」交流作業	
	実施日時	平成30年2月12日	
	実施場所	愛媛大学教育学部附属特別支援学校 日常生活訓練棟「みかんの家」	
	実施目的	愛媛大学附属特別支援学校にある農園整備を、特別支援学校のPTA及び児童・生徒と、本校PTA会員・生徒が協力して行い、交流活動を通じて、特別支援教育に対する理解や啓発を図るとともに、両校PTA会員同士の親睦を深める。	
	実施内容	① 農園周辺の溝清掃 ② みかんの木の手入れ ③ 農園の手入れ ④ 豚汁作り	
	実施方法	両校の保護者・教員・生徒・児童を4班に分け、作業交流を行う。作業終了後、全員で昼食をとりながら、交流を深める。	
参加人数	本校PTA会員及び交流希望生徒・教職員	計41名	
	特別支援学校PTA会員及び児童・生徒・教職員	計58名	
	マイスター倶楽部代表	計2名	

内容	10:00 「みかんの家」集合 対面式 作業分担
	10:15～ 作業交流 (①農園周辺の溝清掃 ②みかんの木の手入れ ③農園の手入れ ④豚汁作り)
	12:00～ 昼食をとりながら交流
	13:00 解散

当日は強い寒気の影響で荒天が予想されたが、無事実施することができた。対面式を行った後4つの班に分かれ、諸注意を受けて作業に取り組んだ。保護者の方々や教職員は、両校の生徒・児童の交流がうまく進められるようにサポートした。2時間程度の作業の後は、参加者全員で昼食を共にした。非常に気温が低い環境下ではあったが、協力して作業を行うことで心も体も温まるよい交流活動となった。



作業の概要説明と農園周辺の溝清掃の様子

報告事項

結果





農園の手入れの様子



その他の交流の様子

交流作業開始当初は遠慮がちだった生徒たちも作業を進めるうちに上手くコミュニケーションが取れるようになっており、屋食時にはお互いの理解を深めることができていた。今年度より新たに服の上に名札を付けて交流を行った。その結果本校生徒と附属特別支援学校の生徒との距離がより近くなったように感じた。運動会や文化祭などの機会を通じて両校の交流は行われているが、年に一度のこの交流作業を楽しみにしている者も多く、大変人気のある作業である。昨年度に比べて男子運動部の生徒の積極的な参加もあり、力仕事も多くこなせたと思う。本校PTA役員も今年度は5名の方に参加していただいた。来年度以降もより活気のある交流活動にしたいと考えている。

所感

添付書類

参加感想・収支決算書・領収書

## カンガルーシップ活動

## 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成30年2月19日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 1年生

・特別支援学校の生徒・本校生徒・両校保護者が皆笑顔で楽しく作業できたので良かったです。今回のこういった貴重な経験をこれからの自分の生活に活かしていきたいと思います。そして、また機会があれば特別支援学校の子供たちともう一度関わりたいです。

・私は今回の特別支援学校との交流でたくさんのことを学ぶことができました。私は将来教師になりたいと思っています。そのために今回の交流はとても役に立ったと思いました。行く前は初めての経験なので不安がとてもありました。しかし、いざ交流をすると特別支援学校の生徒が皆笑顔で話しかけてくれ、私が話しかけたら楽しそうに答えてくれとても安心しました。将来の夢を実現するためにも、積極的にこのようなイベントにこれからも参加していきたいと思います。

・私は「みかんの家交流作業」に参加でき本当に有意義でした。特別支援学校の生徒と一緒に作業するにつれてお互い笑顔が増え、下の名前呼び合える仲になりました。心が綺麗な人がたくさん居て、自分自身も見習わないといけないなと思いました。仲良くなった分最後のお別れは寂しかったです。今回の活動を通して人の温かみをととても感じることができました。また、協力することの大切さも同時に学びました。附属高校だからこそのようなボランティア活動が多いと思いますので、1つ1つの活動に対して感謝の気持ちを持ってこれからも取り組みたいです。

・今回のみかんの家交流作業では色々な体験をし、そして考えました。1つは働いて、食べて、疲れることの気持ち良さです。最近の私は睡眠不足やデジタル画面の見すぎや考え事による睡眠欲が強く、肉体疲労による睡眠欲は久しく感じていませんでした。一生懸命働いた後の昼食はとても美味しく感じられました。そして帰りのバスではぐっすり寝てしまいました。久しぶりに心地よい眠りができ、それだけでもこのボランティアに参加した意味があったと思います。それだけでなく、他にも学べたことがありました。障害を持った人たちと交流をして「障害を持つ人も個性があるんだな」という当たり前のことを改めて考えました。思い返してみればそう考えることが既に私が障害者の方々に対して無意識に思っているということでした。私はそんな自分に恥ずかしく思いながらもそれに気付けたことをプラスに捉え今後生活していきたいです。

・最初はどんな人たちが居るのか分からなかったのととても緊張しました。僕自身とても恥ずかしがり屋なので自分から声をかけることがとても難しかったです。友達のを借りて勇気を出して声をかけてみるととても気さくで、向こうからも色々話してくれて友達になれたかなと思いました。特別支援学校の人たちと共に汗を流した後の昼ご飯は最高に美味しかったです。これからもこのような活動に積極的に参加していきたいです。

・今日の交流作業を通して私は数えきれないほどのことを学びました。現地に到着するまでは私自身とても不安で交流することに対してイメージが湧かなかったです。しかし、対面式が終わり作業分担当場所で4人の特別支援学校の人たちと交流することになりました。共に作業をしていくうちにお互い打ち解けあうことができ、その時やっと交流のイメージが湧きました。一緒に作業した際には色々な深い話をし、終始笑っていたなと思います。対面式の時に副校長先生が「話を聞いても経験することにはかなわない」と仰っていました。交流を通してこの言葉の意味がとても分かりました。普段は関わることのできない人たちと交流することができて本当に楽しい時間でした。特別支援学校の人たちの純粋な優しさに私自身凄く助けられました。来年も是非参加して、更に充実した時間を過ごしたいなと思います。



## カンガルーシップ活動

## 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成30年2月19日

学校名 愛媛大学附属高等学校

学年 2年生

・今回の交流は日常では体験することのできない貴重な体験をすることができました。特別支援学校の生徒さんとの交流は初めてだったので最初は上手くコミュニケーションが取れませんでした。時間が経つごとに自然に交流することができました。このような交流をすることで障害を持っている方への理解が深まったと思います。またこのような機会があれば必ず参加したいです。これからは附属学園の繋がりが強くなる機会が増えれば良いと思います。

・今回みかんの家交流作業に参加させていただきとても有意義な時間を過ごすことができました。去年も参加させていただきとても楽しかったのですが特別支援学校の生徒とあまり交流することができなかった。今回は自分から積極的に特別支援学校の生徒に話しかけるようにしました。するとみんな楽しく話してくれて仲良くなることができました。作業をした後の昼食の時間もたくさん話すことができました。多くの方々の協力により実現できた活動だと思うのでこの経験を絶対忘れないようにして今後の学校生活に活かしたいです。

・初めての参加でどのような感じなのか全く分からなかったけれど、行ってみると多くの人と交流することができ楽しかったです。最初は堅い感じで作業するだけだと思っていました。実際はそうではなく、周りの人と交流しながらの共同作業であったので、楽しくそして効率良く行うことができました。特別支援学校の生徒とは時間が経つにつれて話せるようになりました。時間が経つのが早くもう少し話していたかったなと思いました。今後も似たような活動があれば積極的に参加したいです。

・今回初めて「みかんの家交流作業」に参加しました。特別支援学校の生徒さん達と関わる機会はなかなか無いので貴重な体験になったと思います。特別支援学校の生徒さんと一緒に溝の泥を出す作業を行いました。泥が固い場所は一様に協力して作業することができました。その後の昼食の時間に「今日はありがとう」と言いながら飴をくれたことが一番印象に残りました。精一杯作業をした達成感と特別支援学校の生徒さんの優しさを感じることができました。今回の経験を来年度の高大連携科目の課題研究にも活かしたいです。またこのような交流の機会があれば参加します。

・昨年に引き続き2度目の参加でしたが今回もとても楽しく交流を行うことができました。前半の作業では黙々と作業をしてしまい、上手くコミュニケーションが取れなかったので昼食の時間は自分から積極的に話しかけようと考えました。5歳の女の子と一緒に昼ごはんを食べたいと声を掛けてくれ、一緒に過ごしました。じゃんけんをしたり、しりとりをしたりと楽しんで活動を行うことができました。また、今年から服の上に名札のようなものを付けることでお互いに名前呼び合うことができ、去年よりも人と人の壁が薄くなり、距離が近くなったように感じました。豚汁は去年同様とても美味しく、寒い外での作業後ということもあり大変温かさが目に染みしました。また皆さん優しく、高校に居るだけでは過ごせないような有意義な時間を過ごさせていただきました。今回一番嬉しかったことは5歳の女の子との交流です。周囲の先生や保護者の方からも「本当の姉妹みたいやね」、「こんな笑顔なのは久しぶりよ」などと声を掛けていただくことができ、私自身も久しぶりに姉という立場で昔妹に接していた頃の気持ちを思い出し、とても幸せでした。今後も機会があればどのような形でも良いので参加したいと思います。

・今回が初めての参加でした。思っていたよりも年の若い子が多いなと感じました。私は木に付いている小さい枝を切る作業を主に行いました。切った枝を特別支援学校の小学生の子たちが運んでくれました。「いっぱい入れて」と楽しそうに笑う姿を見ると私の方が嬉しくなりました。途中で泣いたり、叫びだしてしまう子も居ましたが、先生方に「やめる？」と聞かれて「やめない、頑張る」と言っていた子供たちを見ると率直に凄いなと思いました。みんなで昼食を食べる時間に私は特別支援学校の子供たちとあまり話すことができませんでした。勿体ないことをしてしまったと思いました。今後、同じような機会があればもっと積極的に話しかけていきます。帰りに手を出して「バイバイ」と言いに来てくれた子がいて、嬉しくてとても心が温まりました。他にもありがとうと言ってくれたり、笑い合ったりと、感じる事が多い1日でした。とてもいい経験ができたと思います。また行きたいです。

## カンガルーシップ活動

## 共生プロジェクト参加感想

提出日 平成30年3月6日

学校名 愛媛大学附属高等学校 保護者

・今回2度目の参加でした。剪定した枝を片付けるお手伝いをさせていただき、生徒や保護者、先生方とアットホームな雰囲気の中作業を進めました。次々枝や葉を運ぼうと生徒がテミを持ってくるので剪定はさみを持っていた手は終わる頃には自由にならないほどでした。作業の後はお弁当とあったかい豚汁をいただき、会食の間も会話が弾み終始とても和やかな時間を過ごしました。特別支援学校のPTAの方たちとは普段交流が無いのでこういった機会がもっと増えて愛媛大学附属五校園の交流がますます活性化されるといいなと思います。参加させていただきありがとうございました。

・お役に立てたかどうかはさておき、純粋に楽しめました。調理と食事場所の準備などをお手伝いさせていただきましたが、普段ではなかなか接することの少ない他学年の子と話をしたり、支援学校の生徒さんに野菜の切り方を教えたりと、楽しく過ごさせていただきました。バスの中でも、生徒の自然な姿を見ることができてうれしかったです。マイスターの方とお話をさせていただいたのですが、小・中の附属と違って、附属高校の生徒、保護者と話す機会が少ないので、このような場はとても貴重だとおっしゃっていました。私も、学校外でのこのような交流は子どもたちの成長に必要なことであると感じます。「附属校」というつながりがあるのだから、このような機会が増えると良いなと思いました。

・荒天が予想されたが、天候にも恵まれ、良い活動になったと思う。生徒同士は、同じ作業を協力して行っていくなかで、お互いの気持ちもほぐれて、言葉を掛け合いながら取り組んでいく様子が、ほほえましく思えた。このような機会は、本当に大切なものは何かを改めて教えてくれる。本当に良い経験をさせていただきました。